## １　作　　物

| 項　　目 | 作　　業　　内　　容 |
|---|---|
| | （今月の作業のポイント）<br>○普通期水稲の育苗管理<br>○麦の管理 |
| **（１）普通期水稲の育苗管理と移植前の準備** | ５月は普通期水稲の育苗が始まる。育苗管理については「今月の天候と農作業（３月）」、移植前のほ場準備については「今月の天候と農作業（４月）」を参照する。 |
| **（２）麦の管理** | ア　カラスノエンドウの種子、異物の混入防止<br>収穫物にカラスノエンドウの種子（写真）や異物（金属・ガラス・石）が混入すると、調製・精麦・加工段階での除去は難しい。これらは県産麦の評価を著しく低下させるため、徹底した混入防止に努める。<br>対策としては、収穫までにほ場内や畦畔・農道を巡回しカラスノエンドウを抜き取り、ほ場周辺から完全に除去するなど生産者による立毛調査（互評会やほ場巡回）を行い、地域ぐるみで対応する。また、空き缶やビンを回収し、収穫時の刈込みを防ぐ。<br> <br>写真　カラスノエンドウ<br>イ　麦の適期収穫<br>農林水産研究所作況ほ場(11/21 まき)の出穂期は、２月が低温で推移したことより、ハルヒメボシで３/25(平年値３/18)、チクゴイズミで３/28(平年値３/23）と平年より５～７日遅かった。出穂後の平均気温は平年並で推移し、１か月予報（４月 10 日高松地方気象台発表）における平均気温は平年並か高いとされているが、出穂期が遅かったため成熟期は平年並かやや遅くなると予想される。そのため、早刈りにならないよう注意する。<br>表１　令和７年産麦の成熟期予想（農水研ほ場から予想）<br>播種日<br>11/9　11/21<br>ハルヒメボシ　－　5/12～5/15<br>チクゴイズミ　5/16～5/22　5/24～5/28<br>シロガネコムギ　5/22～5/27　5/25～5/30<br>表２　成熟期の目安<br>ハルヒメボシ　チクゴイズミ<br>出穂後日数（日）　47～58　54～67<br>積算温度（℃）　764～815　926～1035<br>過去５年間（2020-2024）の農水研作況ほ場データから作成 |

| 項　　目 | 作　　業　　内　　容 |
|---|---|
| | 麦の成熟期は、全体の 80%以上の穂首が黄色くなってツヤがなくなり、穂色が黄緑色から品種固有の色に変化し、粒がろう状の硬さに達した時期である。穂首の曲がった穂の割合では、ハルヒメボシでは約半数に達した時とされており、出穂後日数で 47～58 日程度である（表２）。しかし、湿害に起因する枯れ熟れ様症状が発生したほ場では、出穂後日数の目安に達する前に成熟期を迎える場合があることから、ほ場を良く観察し適期に収穫する。<br>コンバインの収穫適期は成熟期の２～３日後になる。穀粒水分 25%以下で収穫し、収穫後は速やかに乾燥する。成熟数日前の１日当たりの穀粒水分はおおむね晴天日に３～６%、曇天日は２%減少するので、刈取り時期を予測して適期刈取りを行う。収穫適期より２週間早く収穫すると未熟粒が多く、１週間以上刈り遅れると退色粒が増加して、いずれも等級が低下する（下図）とともに、硝子率は早刈りで高くなるので、適期収穫に努める。<br> <br>図　ハルヒメボシの刈取時期別の検査等級(H30 年産)<br>なお、降雨直後等の高水分時の収穫は極力避ける。やむを得ず高水分（穀粒水分 30%まで）で収穫する場合、コンバインのこぎ胴の周速度を通常より 10～20%下げる。収穫後に長時間(穀粒水分 40%で６時間以上）放置すると穀粒の変質や赤かび病の感染拡大が懸念されるため、収穫後は直ちに乾燥を行う。<br>ウ　麦の乾燥・調製<br>穀粒水分 25%以下の場合は、45～50℃で乾燥する。高水分の場合（25～30%）は、退色粒の発生を防ぐため、40℃以下で乾燥する。乾燥は１時間あたり 0.8%の水分減少を目安とし、はだか麦では 13%以下になるまで乾燥する。<br>調製は、実需者から望まれる高品質な麦を供給するという点を最優先し、雑草種子や異物、赤かび病罹病粒の除去、荷口ごとの品質の均一化、細粒の混入防止に努める。<br>グレーダーの篩目は、ハルヒメボシでは 2.1 ㎜以上、チクゴイズミでは 2.3 ㎜以上とし、入念に調製する。 |

| 時期 | －２週 | －１週 | 成熟期 | ＋１週 | ＋２週 |
|---|---|---|---|---|---|
| 等級<br>(落等理由) | ２等<br>(未熟) | １等 | １等 | 1.6等<br>(退色) | ２等<br>(退色) |

（作成　農林水産研究所）